

春

SYUNJUSAI

熊本県立大学・学報

1999・3

VOL.12

秋

■春秋彩とは…

「万葉集」の額田王の春秋を論じた歌の詞書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。
「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

彩

特集Ⅰ 環境共生学部誕生！

特集Ⅱ 公開講座

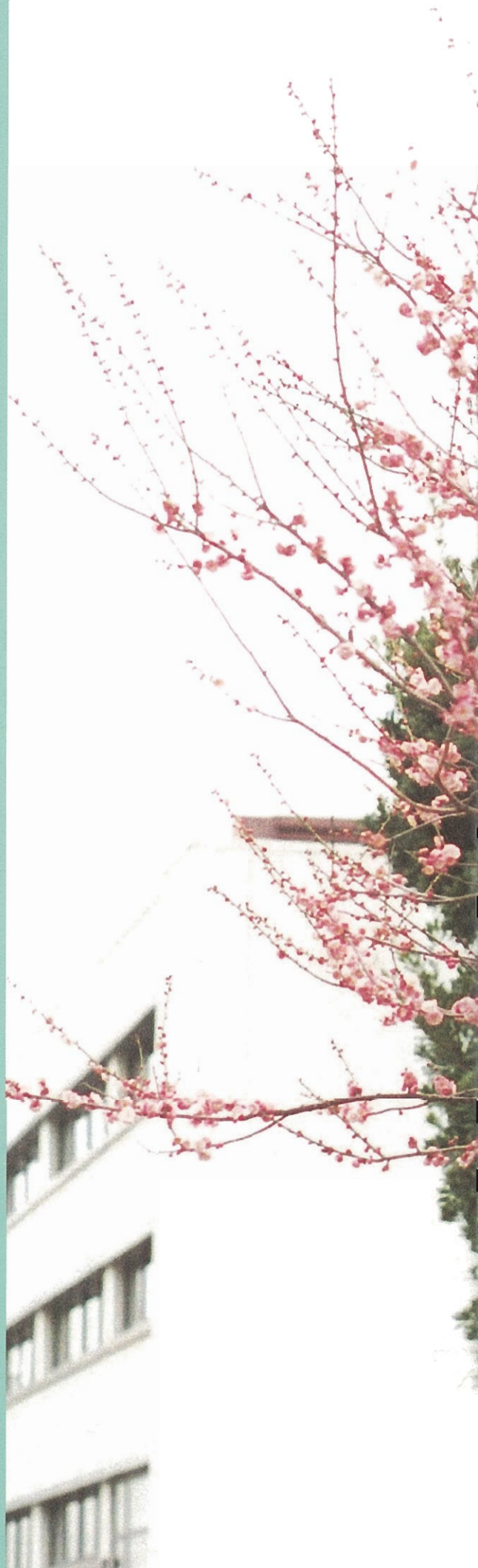




羽音の詩。

HAOTO

春まだ浅き光の中、君は
未来へと繋がる道を、確
実に歩み始める。峻別の朝
鳥たちは、君の心をその
翼に乗せ、蒼い空に向け
て飛び立って行く。風を捉
え、切り、往還する
力強い羽音が
聞こえてくる。
何者にも捕らわれない自
由が生んだ未来への夢が、
伸びやかに飛翔する時。
その先に、新たな希望
の気ざしが見えてくる。



日本語と外国語

「外国語に通ぜざる者、自国語につき知ることなし」
ゲーテの箴言の一つである。

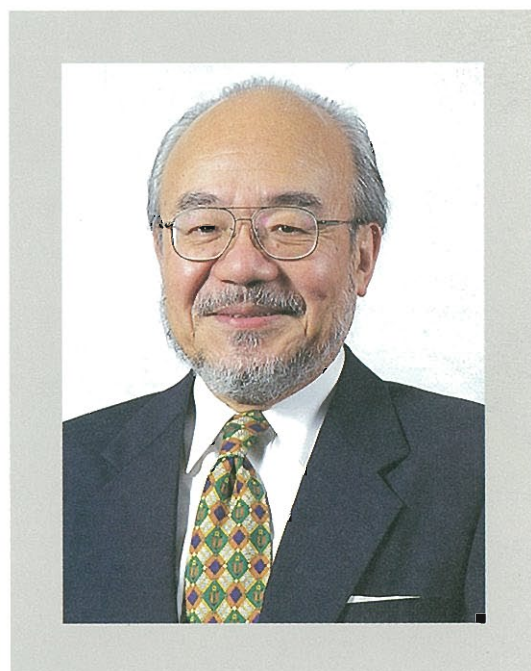
彼にとつての「自国語」ドイツ語の達人ゲーテが、
ここで言おうとしたのは何か。

まずは、外国語の知識が大切だということ。もつと
も、ゲーテ自身はフランス語すら苦手だったらしいが
(だからこそ、ともいえる)。

つぎに、当の外国語は一つでは駄目だということ。
ゲーテは「外国語」なる単語を複数形で使っているの
である。

そして、自国語唯我独尊の夜郎自大に陥ること（今
日ではえば、英語民族の「英語帝国主義」のたぐい）
への戒め。同時に、さりとて無国籍的な自国語卑下に
堕すること（明治初年、後のわが国初代文相・森有礼
ともあろう人物が、アメリカで何と英語の日本国語化
論をぶつたのは、悪名高い一例）へも、警告を忘れて
いないと読み取るべきだろう。

人あつて、ゲーテが言っているのは外国語の知識が
自国語を本当にわかるのに役立つということで、結局
自国語中心主義ではないかと批判するかも知れない。
対して、今の世にゲーテありせば言うに違いない。「自
国語につき知らざる者、外国語に通ぜず」



熊本県立大学

学長 手島 孝

1	PROLOGUE 羽音の詩	
2	学長のことは 日本語と外国語	
4	特集Ⅰ 環境共生学部誕生	学部内容紹介 環境共生フォーラム
6	特集Ⅱ 公開講座	授業公開講座、公開講演会、 地域講演会
8	研究内容の紹介 こんな研究、しています。	文学部／小幡万津男 教授・環境共生学部(平成11年4月開設)／鈴木 公 助教授 総合管理学部／堀田 久 講師・松尾 隆 助教授
12	本学での研究状況	学術紀要、文部省科学研究費補助金、後援会からの助成、海外学術会議での発表派遣、 学会奨励補助金、地域貢献研究事業
14	教員の紹介 我が師	環境共生学部 中島悠八郎 先生 総合管理学部 津曲 隆 先生
15	留学体験 随筆	四川と道教 (文 学 部 助教授 山田 俊) Come va? (環境共生学部 助教授 堀岡 義之)
16	学生の声 VOICE	才能を見つけ出す 職探し 学生の常識を問う
18	サークル便り	女子バスケットボール部 バドミントン部 ハンドボール部 茶道部
19	卒業生からのメッセージ message for you	紺文杉への道を歩いて やりがいのある仕事 岩永 倫子(シロヤバリガン(株)勤務) 賀久真知子(日本語講師(韓国・水産専門大学勤務))
20	CAMPUS-NEWS	
24	incident (1998.7-1999.2) schedule(1999.3-1999.7)	

学部が目指すのは

環境共生型社会の創造

自然環境
自然の保全と
持続的な利用

環境共生

人間活動
快適で健康な
生活の確保

2つの方向からアプローチ

環境共生学部誕生！

本年4月、本学に、自然環境と人間活動の共生をめざす新しい自然科学系の学部「環境共生学部」が誕生します。

「環境共生型社会の創造」

のために

人類は、長い歴史の中で、自然環境を改変しながら生活してきました。特に、産業革命後、人口の爆発的な増加とあいまってエネルギーの大量消費・物質の大量生産というかたちで自然を収奪し、環境を破壊し、結局のところ生態系の貧困化を招いてきました。

この局面を開拓するためには、自然環境と人間活動との共生を図り、自然環境を持続的・循環的に利用し、健康で快適な生活環境を創造することによって社会の発展と福祉の向上をめざす「環境共生型社会の創造」が必要です。

「Think Globally, Act Locally」の標語にあるように世界的規模で現代の生産・生活様式全体の転換が図られなければなりません。同時に、環境共生型社会の創造のために、より具体的な取り組みが求められています。

これまで、自然環境の問題は理学部、農学部において、人間活動の問題は家政学部、工学部、医学部等において取り扱われてきました。しかし、環境共生にかかわる諸問題の多様性を考えれば、これらの問題の解

決には、従来の学問分野の枠組みを超えた総合的な問題把握と教育研究が不可欠です。

そこで、環境共生にかかわる諸問題を総合的に捉え、自然環境と人間活動との共生の方策を追究し、地域の発展と人間福祉の向上をめざすことを理念とする環境共生学部を設置します。

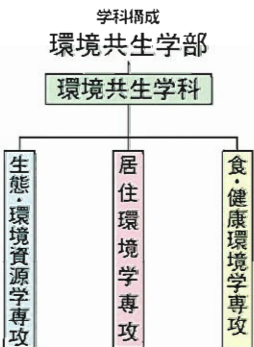
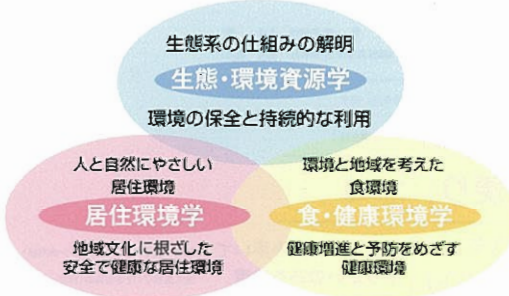
次の3領域にわたる教育研究を行います。

1. 地域の生態系メカニズムの解明及び人間活動が生態系に及ぼす影響の解析を通じた自然環境と人間活動との共生の基礎的理論
2. 共生の理念を前提とした環境への負荷軽減、物質の正常な循環、人間の健康・福祉等の視点を重視する住居・建築・都市・地域へと連なる居住環境とそのシステムのあり方
3. 環境に負荷をかけない食資源の開発と食品の創製、地域の環境特性を考慮した食生活の設計と健康増進の方策

これらの3領域は、基本的に自然環境との共生の理論で互いに結ばれ、更に地域福祉、地域文化の理念も含んでいます。このような考えから、人間活動と地域の様々な環境とが持

統的に矛盾なく共生するための方策を科学的に追究する学部として「環境共生学部」の名称を付すものです。

■そのために
学部は3つの領域=専攻をもちそれらは互いに重なりをもつ



総合性と専門性のバランスのよいカリキュラム

環境共生学部の学問領域の中心課題である環境共生型社会の創造のために、特に必要な科目を「学部共通科目」とし、これを必修又は選択必修科目とします。更に、学部共通科目で得られる環境共生に関する知識・思考方法・技術や学生の問題意識、知的関心を個別具体化し、それらを専門的に深化するため、「専攻専門科目」を配置します。

①導入科目
なお、教養科目については、学生の問題意識に応じて主体的に履修できるよう、1年次から4年次まで開講します。

②基幹科目
環境共生にかかわる諸問題の全容を学び、あとに続く専攻専門展開科目の学問上の位置づけと基礎科目を学ぶ意味を明確にします。

③環境共生総合演習
環境共生という大きな視点から総合的な判断能力を養成するため、環境共生にかかわる諸問題に自主的に取り組み

**専門教育における
現場体験の重視**

フィールドワーク、環境アセスメント実習など多数の実験・実習科目において、環境共生にかかわる諸問題の原点である現場で実証的作業を体験させ、応用的能力を育成します。

〈教育課程の系統的編成〉

	1年次	2年次	3年次	4年次
学部 共通科目	総合性の 追求	基幹科目	環境共生 総合演習	
専攻 専門科目	専門性の 追求	基礎科目	展開科目	卒業論文
教養教育		教養科目		

- ④ 専攻専門科目
各専攻の領域の基礎的知識・技術を学ぶ「基礎科目」と専門性の高い「展開科目」に分け、専門性の充実を図ります。
- ⑤ 卒業研究
学科教育の仕上げとして、「卒業研究」を行い、卒業論文を作成します。

生態・環境資源学専攻

「環境共生」にかかわる諸問題を科学的に解明し対処するための基礎的な自然科学の知識と理解力を養成し、併せて、生態系の仕組みの理解や、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を育成します。

また、環境資源の保全と適正利用によって、持続可能な社会発展のための方策を探索します。

- 取得資格等**
環境計量士受験対応、理科教員免許(中学・高校)
二級建築士受験資格
- 卒業後定まれる進路
1. 環境関連企業
水処理、環境対策、環境アセスメント、環境コンサルタント等
 2. 建設関連企業
建設コンサルタント、ディベロッパー等
 3. 農林水産関連企業
 4. 各種製造業
 5. 行政機関
環境管理・研究・流通部門
国または自治体の環境行政部門・試験研究部門

人と自然にやさしい居住環境の創造 居住環境学専攻

「環境共生」の視点から、住宅・建築・都市・農山村地域・自然に至る居住環境の全体を見据える実体験を通した科学的認識能力を育成します。

その上で、地方文化に根ざし、地域資源を活用し、更には健康・福祉を重視した居住環境の改善・創造に寄与しうするデザイン、計画、調整、構築に関する確実な知識・技術的能力を修得します。併せて、関連する社会科学の知識・素養及び生態に関する知識を身につけます。

- 取得資格等**
二級建築士受験資格
二級建築士受験資格
- 卒業後定まれる進路
1. 建築関連企業
建築設計事務所、地域国土計画事務所、住宅メーカー、建設会社、ディベロッパー、構造設計事務所、設備計画・施工会社、設備関連会社、インテリア関係会社、木材林業関係会社、不動産関係会社、建築資材製造会社
 2. 行政機関
国または自治体の建築・環境整備部門

環境と地域を考えた食環境の創造 食・健康環境学専攻

「環境共生」の視点から、自然環境への負担を軽減し、地域の環境特性を反映した食と健康について、基本的知識と実践の方法を修得するため、まず、食と健康に関する基礎的な自然科学の知識と理解力を養成し、食品の特性と人体の機構について有機的に学びます。

その上で、食糧生産環境の現状と人間にとっての健全な環境についての知識を含めて、食資源の開発、食品の加工と衛生、栄養の科学、食や運動を通じた健康管理にかかわる理論と技術を修得します。

- 取得資格等**
栄養士免許、管理栄養士受験資格、理科・家庭科
教員免許(中学・高校)、食品衛生監視員・管理者
- 卒業後定まれる進路
1. 各種製造業
農林水産・食品・医薬・健康関連産業の研究開発・生産管理・技術部門
 2. 各種健康関連企業
スポーツ・健康増進施設
 3. 行政機関
国または自治体の健康増進・環境衛生に關する行政・試験研究部門
 4. 病院・学校・企業の栄養師・栄養士等

環境共生フォーラム

「環境共生型社会」を創造するために

環境共生学部開設に先立ち、昨年12月12日(土)本学大講義室において「環境共生フォーラム」が開催されました。

真鍋淑郎氏(地球フロンティア研究システム地球温暖化予測研究領域長)が「地球温暖化は起こるのか」というテーマで講演、世界が注目する地球温暖化問題に迫るとともに、「環境共生型社会をめざして」と題したパネルディスカッションも併せて行われました。

当日の参加者は、県内外の高校生や企業・団体職員など約340名。その後、引き続き専攻別の進学相談会も行われ、大変好評を博しました。

●基調講演

「地球温暖化は起こるのか」



真鍋 淑郎 氏

昭和29年東京大学理学部卒業後、昭和33年より、米国の気象局、海洋大気局の研究員、プリンストン大学客員教授等に勤務し、平成9年帰国。

現在、宇宙開発事業団(NASDA)と海洋科学技術センター(JAMSTEC)との共同プロジェクトである「地球フロンティア研究システム地球温暖化予測研究領域長」として、人間活動の結果として起こる気象変化を見つげだすことに役立つ研究を多数行っている。理学博士。米科学アカデミー会員。朝日賞、ブループラネット賞をはじめ数々の内外の賞を受賞。

●パネルディスカッション

「環境共生型社会」をめざして
パネリスト(敬称略)

真鍋 淑郎 (基調講演者)

藤本 素士 (熊本県環境センター館長)

石川 博敏 (県立天草高等学校校長)

中村 幸子 (情報誌「HANDS LAND」編集長)

篠原 亮太 (北九州市環境局環境保全部長)

中島 昭二 (熊本県立大学教授 居住環境学専攻兼任予定)

飯尾 雅彦 (熊本県立大学教授 食・健康環境学専攻兼任予定)

川本 浩右 (熊本日日新聞社論議委員)

コーディネーター(敬称略)



授業公開講座、公開講演会、
地域講演会



授業公開講座の様様

公開講座

本学では、「地域へ開かれた太学」を目指して、一般の方々を対象とした次のような公開講座を実施しています。

■授業公開講座

社会人に対しての特別講義でなく、大学の正規の授業を聴講したいという声に応えて平成2年度から実施しており、全国でも珍しく、ユニークな講座として注目を浴びています。

この講座は、短期集中型のものではなく、一般の人々が、半年又は一年間継続して本学の学生と一緒に受講するシステムで、授業は体系的で専門性の深いものとなつています。「科目等履修生」と違い単位の取得はできませんが、リーズナブルで気軽に大学の授業を聴講できるので、開講以来、生涯教育の場のひとつとして好評をいただいております。

募集は、例年、前期開講科目（4月から半年間）と通年開講科目（4月から1年間）は2月頃に、後期開講科目（10月から半年間）は8月頃に行っています。

◆ 受講料

- ・前期又は後期の科目（半年間）
1科目につき 4000円
- ・通年開講の科目
1科目につき 8000円

授業公開講座開講科目（平成11年度前期募集）

外国語	ドイツ語Ⅰ	外国語	フランス語B	外国語	韓国語Ⅰ・Ⅱ	文 学	マスメディア論	文 学	日本語教授法Ⅰ・Ⅱ	総合 管理 学	家族関係論		日本経済論
	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ		フランス語C		韓国語B		日本語学概論Ⅰ		日本語教授法Ⅲ		情報リテラシーⅠ		
	ドイツ語B		実用フランス語A		韓国語C		日本語学演習Ⅱ		イギリス史		地方自治論		
	ドイツ語C		実用フランス語B	人間と教育	日本文学概論Ⅰ・Ⅱ		中国文化論		社会政策論				
	実用ドイツ語A		中国語B	国際 関係 理解	現代の国際関係		ドイツ語圏文学		栄養生化学		金融論		
	実用ドイツ語B		中国語C		民族・宗教と国家		フランス語圏文学(講義)		生化学		財務管理論		
	フランス語Ⅰ・Ⅱ		実用中国語B		自然環境と化学		比較文学研究		公衆衛生学		広告論		

■地域講演会

県内の市町村に本学の教員を派遣し、地域住民を対象に身近なテーマについて講演を行うもので、昭和59年度から実施しています。

年3回程度実施しており、これまでに延べ4,699人の参加がありました。地域に密着した内容について学習ができる機会として、高い評価を得ています。

◆ 受講料

無料



地域講演会
(平成10年度天草地区会場)

あることをユーモアを交えながら講演を行いました。



活科学部の鈴木公助教授が「生活習慣病（成人病）予防のための食事と運動」という演題で、予防医学の視点からどのような食生活と運動を行えばよいのかわかりやすく講演を行いました。また、総合管理学部の石橋敏郎教授が「地域おこしは人づくりから」という演題で、地域活性化を行うためには人材育成が不可欠で

地域講演会（平成10年度実績）

1998.11.28	阿蘇地区 (一の宮町)	「今日の少年心理と心の相談の難しさ」 田中 宏尚(文学部 教授) 「いきいきスポーツライフ」 重松三和子(生活科学部 助教授)
1998.12.15	球磨地区 (免田町)	「これからの健康づくりと食生活」 鶴田 英子(生活科学部 講師) 「暮らしの中の環境問題」 古賀 実(生活科学部 助教授)
1998.12.8	天草地区 (苓北町)	「生活習慣病(成人病)予防のための食事と運動」 鈴木 公(生活科学部 助教授) 「地域おこしは人づくりから」 石橋 敏郎(総合管理学部 教授)

■公開講演会

国内外から特に優れた研究者や専門家を講師として招き、本学の教育と関連の深いテーマについて年二回程度開催しています。

この講演会は、本学内で開催しており、本学学生も対象としていますが、一般の方々にも公開しています。

◆受講料

無料



森 浩一 同志社大学教授
「古代日本の知恵と技術」

公開講演会（平成10年度 第1回）

同志社大学の森浩一先生をお招きして、「古代日本の知恵と技術」と題して行われました。

淡々とした中にもユーモア溢れ、示唆に富む講演で、その内容は、

1、石器時代は、人々が石器を主体に生活をしていたように思われがちであるが、それは木の遺物が残りにくいからなのであり、実は豊かな木の文化の時代だったこと、それがその後の日本文化の基礎となったこと、すでに縄文時代には巨木を使用した巨大建築物もでき

ていたこと、

2、古代人は、自然との調和を大事にしており、自然の中での彼らの生活は、環境汚染など、矛盾をはらむ現代生活への問題提起となっていること。産地が限られる質の良い黒曜石の石器は、日本全土のみならずユーラシア大陸にも分布していることなどの事例から分かるように、海を越えてまで原料の入手と加工品の輸送に心を砕いた、古代人の資源に対する探求心の旺盛さがうかがえること、

3、金属文化を受け入れる際にも工夫を凝らしていることから、日本人の知的好奇心の源流を古代にまで遡ることができそうであること、などを述べられました。

最後に考古学と地域の関係はその姿勢がきちんとしていることが大事であり、そうであれば「考古学は地域に勇気を与える」と結ばれ、参加された方々の大きな共感と拍手をうけられました。



森浩一先生の著書



香山不二雄
自治医科大学助教授
「環境ホルモン—研究の現状と課題—」



有蘭 幸司
長崎大学助教授
「環境ホルモンと私たちの生活」

公開講演会（平成10年度 第2回）

長崎大学の有蘭幸司助教授と自治医科大学の香山不二雄助教授をお招きして、現在大きな問題となっており、私たちが生活の中に潜む問題点や人体に及ぼす影響を中心に講演を行い、その後北九州市環境局の篠原亮太環境保全部長をコーディネーターに講師と本学教員によるパネルディスカッションを開催し、パネリストと参加者の間で活発な議論が行われました。



・公開講演会（平成10年度実績）

1998.12.1	「古代日本の知恵と技術」	森 浩一（同志社大学 文学部 教授）
1999.1.23	「環境ホルモンと私たちの生活」	有蘭 幸司（長崎大学 環境科学部 助教授）
	「環境ホルモン—研究の現状と課題—」	香山不二雄（自治医科大学 医学部 助教授）
	パネルディスカッション	コーディネーター 篠原 亮太（北九州市環境保全部長）
		パネリスト 有蘭 幸司（長崎大学 環境科学部 助教授）
		香山不二雄（自治医科大学 医学部 助教授）
		古賀 実（本学 生活科学部 助教授）
		堤 裕昭（本学 生活科学部 助教授）

私の研究『日本新劇理念史』

小櫃万津男 教授

明治の文明開化の時代を迎えて、西洋の文明が急速に移入・紹介される時代となった。演劇もその例にもれず、新しい明治現代に相応しいものが求められた。なにしろ当時の演劇は歌舞伎しかなく、(もつとも中世以来の能狂言はあったが、既に古典化していた)その歌舞伎は既に江戸時代に発達しつつして、爛熟(らんじく)頽廃(たいはい)し、明治の現代劇として生きることが出来なくなりつつあった。しかし歌舞伎しかなかったのであるから、当然のこととして歌舞伎の改良が「演劇改良」のスローガンと共に叫ば



れるようになった。この間に演劇をどのように改良すべきかというさまざまな考え方(理念)が提出され、新聞雑誌を賑わした。その盛んな様は今日から見れば信じられない位で、日本演劇史上空前絶後の大嵐の演劇論(演劇理念)が続出した。このような時代が明治初年から約四十年続いて、その結果が日本の近代劇である今日の新劇が、明治四十年前後に発足するのである。その発足はこの約四十年の広義の演劇改良運動の結実なのである。

私の研究はこの約四十年の演劇理念の史的展開を明らかにするの



が目的である。いわば新劇以前の演劇理念史である。幸い私の研究成果は『日本新劇理念史』明治前期篇(白水社刊、昭63)、『(同名)』明治中期篇(未栄社刊、平成10)の二冊となって世に出た。しかし四百字詰で計三九〇枚を費やしても、未だ半ばを越えたに過ぎない。日暮れて道は遠い。

文学部

FACULTY of LETTERS

鈴木 公教授



わが国の主な死亡原因は悪性新生物（癌）、心疾患、脳血管疾患です。これらの病気は、生活習慣が原因で発症する高血圧症、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病が

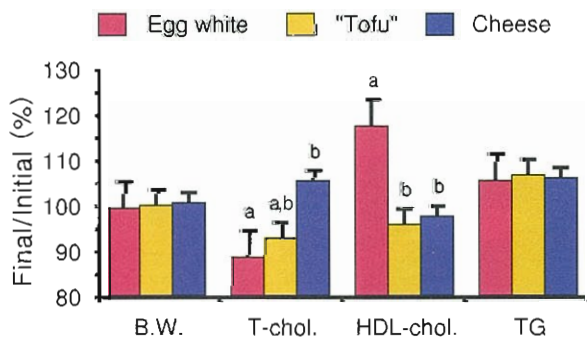
正しい生活習慣は

健康のみなもと

進化した結果です。生活習慣病は日々の生活の乱れ、食生活の偏りによって、何年もの長い時間をかけて徐々に進行します。生活の乱れや偏りが顕著であればあるほど、死に急ぐようなものです。しかし、生活を改善すれば、生活習慣病を予防することが可能になります。例えば、禁煙をして毎日緑黄色野菜を食べる人は、喫煙して緑黄色野菜を毎日食べない人よりも、癌に罹りにくく、約10年長生きできます。また、魚をよく食べる人は魚を食べない人よりも5年



卵白タンパク質がヒトの血清脂質に及ぼす影響



Changes in body weight, total-cholesterol, HDL-cholesterol and triglyceride at the end of the experiment (expressed as percentage of initial value). Vertical lines indicate SE. Columns with different letters indicate significant difference by Duncan's multiple range test ($p < 0.05$).

長生きできるのです。このような身近な研究結果でさえ最近明らかになったことなので、予防に関する研究課題はまだ山積しています。

私の研究室では、身近な健康問題をテーマにした研究を行っています。最近の研究結果を少し紹介します。①「卵と健康」 鶏卵はコレステロールが多いという理由で一般の人に敬遠され、現在も高脂血症の患者には制限が加えられています。ところが、卵のコレステロールは血中のコレステロールを上昇させないだけでなく、卵白には血中コレステロール低下作用

があることを動物実験で見出し、人でもそのことを証明しました。

(図参照) ②「ダイエットと健康」 たとえカルシウムを十分取っていても、ダイエットは骨を脆くすることがわかり、成長期のダイエットは特に危険であることを提唱しました。③「ウロコの有効利用」適切な処理法もなく海洋投棄されているため、海洋汚染の一因となっているウロコ（魚鱗）を粉末にし、カルシウム源として成長期の動物に与えると正常な骨をつくることがわかりました。現在、安全性を検討中ですが、新しい食資源として利用可能であれば海洋

汚染を軽減することになり、新学部のテーマである「環境と共に生きること」につながるのです。大いに期待しています。④「ストレスと健康」 ストレスを解消している人は高脂血症に罹りにくく、健康状態が良好であることがわかりました。⑤「生体のリズム」 体脂肪率は秋から冬にかけて上昇し、食欲は排卵後亢進する傾向にあることなどがわかりました。

今後は、卵、骨とカルシウム、ダイエットなどに関する研究に加え、予防医学の立場から母子と環境ホルモンに関する研究にも取り組みたいと考えています。

環境共生学部

(平成11年4月開設)

FACULTY of ENVIRONMENTAL and SYMBIOTIC SCIENCES

原田 久 講師



自治体にも競争原理を！

先日、本学のある先生と話しておりましたら、先生の近くのコンビニが突然「私に断りもなく」閉店してしまったそうです。競争原理が支配するマーケット（市場）では当然のことですが、日本の自治体が「破産」することはありません。赤字が続いていても、しばらくは国から借金ができます。返済も先延ばしにしてくれます。借金の穴埋めもしてくれます。「地球寄ってく？」というコマー

シャルがありますが、自治体の場合には「むじん（無人）くん」ではなくて、「むじん（無尽）くん」が背後に控えているのです。こうした状況では自治体は、できるだけ無駄を省き、コストを削減しようとか、できるだけ多くの人に住んでもらおうという気にはなりません。

公共部門でも、それぞれの自治体が財政の健全化をめざして競争するシステムは構想できないので、

しょうか。現在、ヨーロッパでは「強制競争入札（CCT）」という制度が導入されつつあります。これまでお役所の仕事とされてきた業務を、お役所自身も参加する入札にかけ、最も安い価格で落札した者がその業務を担当する、お役所が落札できなかった場合、その部局は廃止され、職員もクビにする制度です。市場で民間企業と競争し、民間のサービスがより良い場合には、そのサービスは民間か

度が導入されたら一体どうなるでしょう。この「春秋彩」は無事本学で発行し続けられるでしょうか。それとも、大手広告代理店が発行を引き継ぐことになるのでしょうか。いずれにせ

ら「購入」したほうがよいという考えです。このように、公共部門にも競争原理を可能な限り導入しようというのが、ヨーロッパの行政改革の潮流なのです（参照、原田「比較のなかの行政改革論・序説」アドミニストレーション5巻1号）。最近、幾つかの自治体でこうしたことを話したら、職員の方々はきょとんとしておられました。



金融ビッグバンの幕開け、肥大化するマネー。

松尾 隆 助教授

専門分野は国際金融論です。さぞかし金儲けにたけているであろうとか、ひとつ金儲けのために国際金融論を聴講してみようとおもわれる向きもおられるかもしれないが、全く希望にはそえないと告白せざるをえません。抽象的に述べますと、国際的な貨幣・金融制度は社会の発展にとつてどうあるべきか、というようなことを研究しています。

もう少し具体的に述べます。わ



たしたちをとりまく金融環境は、昨年4月の外為法の改正をフロントランナーとした金融諸制度の改革にみられるように、劇的な変貌を遂げようとしています。「金融ビッグバン」「金融自由化」「金融グローバル化」という言葉をしばしば新聞・テレビ等で見聞きされていると思いますが、そのことです。この改革は国際金融を舞台とした各国の熾烈な競争という状況を考えるならば、極めて限られた枠内での選択であつたわけで、しかたないものであつたわけです。

しかしながら、問題は、金融自由化が今後わたしたちの生活にどのような影響をもたらすことになるのか、はたしてバラ色の社会を約束してくれるのか、ということです。必ずしもそうとは言えないのではなからうかというのがわたしの考えです。



何故にか。たとえば、24時間休むことなく、国境を越えて、しかも極めて短期的観点に立つて、巨額のお金動く世界が出現してきているわけです。その額は、宮沢蔵相の言葉を借りますと、1日あたり、「約1.5兆ドル」で、1年間にしますと「375兆ドル」にも及びます。ちなみに、今日の日本の国内総生産（GDP）は5兆ドル程度ですから、いかにこの怪物が巨大であるか、窺い知ることができますかと思えます。はたしてこの怪物はわたしたちの経済社会をどこに導こうとしているのか。生産的部面では行き場を失いキャピタル・ゲインを求めて徘徊する怪物に社会がまさに呑み込まれようとしているのではないのか。金融ビッグバンという名の下にゼロ・サムของเกมが支配する世界が制度化されつつあるのではないのか。

これらの問題に接近するため、迂回した作業ではありますが、なぜ戦後の国際的な短期資本の移動を管理していた世界から金融自由化の世界へと展開してきたのか、そもそも何故に各国は国際的な短期資本移動を管理しようとしたのかなど、探っています。

◆学術紀要(1998.7~1999.1発行分)

学術紀要名	発行月	内 容
アドミニストレーション 第5巻1号	1998.9	Die "Dienstleistungs-" und "Informationsgesellschaft": eine Gesellschaft ohne Massenarbeitslosigkeit? (I) 米澤和彦(総合管理学部 教授) Günther Schönbauer 森目克彦
		住民・行政関係論序説-住民参加の閉塞状況- 今川 晃(総合管理学部 教授)
		比較のなかの行政改革論・序説 原田 久(総合管理学部 講師)
アドミニストレーション 第5巻2号	1998.12	博物館における情報システムの一考察 野村 武(総合管理学部 教授)
		マルチメディア、VR技術による博物館情報の生成と公開 税所幹幸(総合管理学部 助教授)
		農協信用事業の現状と問題点 宮園博光(総合管理学部 講師)
		Die "Dienstleistungs-" und "Informationsgesellschaft": eine Gesellschaft ohne Massenarbeitslosigkeit? (II) 貞広泰造(総合管理学部 助手)
		高度資本主義と世界福祉国家 秋山喜文(総合管理学部 教授)
		一官僚制批判とマルクス主義 米澤和彦(総合管理学部 教授)
		「相続させる」遺言と登記手続きについて Günther Schönbauer 森目克彦
		久間清俊(総合管理学部 教授)
		赤松秀岳(総合管理学部 教授)

◆文部省科学研究費補助金 採択実績(平成10年度)

研究代表者	研究 課 題	交付決定額 (千円)	種 別
砂野幸稔 (文学部 教授)	セネガルにおけるウオロフ語使用の研究	6,000	国際学術研究
馬場良二 (文学部 助教授)	ピッチとアンプリチュードが日本語長母音の 拍数知覚に果たす機能の解明	1,300	基礎研究(C)
原田 久 (総合管理学部 講師)	日米における統計作成のための外部データ利用 に関する制度運営の比較研究	1,000	特定領域研究(A)

※本学教員が研究代表者となっているものを記載

◆熊本県立大学後援会からの助成実績(抜粋)(平成10年度)

☆共同自主研究助成(学生と教員が共同して自主的に行う研究に助成)

氏 名	研究 課 題	助成額 (千円)
松添直隆 (生活科学部 講師) 古賀 実 (生活科学部 助教授) 井村麗子 (生活科学部 助手) 及び学生6名	熊本県におけるケナフ植物の 栽培の試みと特性調査、並び にその調理法の探索	500
中宮光隆 (総合管理学部 教授) 及び学生18名	地域社会の活性化と国際化	850
高埜 健 (総合管理学部 助教授) 及び学生9名	アジアの危機(エイジャン・クライ シス)~インドネシアを中心に	600
井田貴志 (総合管理学部 助教授) 及び学生10名	ごみ問題に対する行政の対応 と経済学的考察	650
原田 久 (総合管理学部 講師) 及び学生12名	公共事業の実態分析	460

☆教育研究の成果発表助成(教員が教育研究図書を出版する経費を助成)

氏 名	出版 題 名	助成額 (千円)
馬場良二 (文学部 助教授)	ジョアン・ロドリゲスの 「エレガント」	1,000
石橋敏郎 (総合管理学部 教授)	アメリカにおける社会 保障法の発展過程と生 存権思想の展開	1,000

☆国外学術会議出席助成(教員が国外で開催される学術会議で発表する場合に助成)

氏 名	学術会議名	開催地	発表 題 目	派遣期間
赤松秀岳 (総合管理学部 教授)	マックス・プランク・ヨーロッパ法史研 究所シンポジウム「民法典と裁判官」	ドイツ (フランクフルト)	日本の判例におけるドイツ民法典への依拠	1999.3.15-3.20
松野了二 (総合管理学部 教授)	WEBNET98 World Conference	アメリカ (オランダ)	英語学習者のためのWeb/CD-ROMハイブ リッド型コースウェアデータベースとリソ スネットワークの設計	1998.11.6-11.14
税所幹幸 (総合管理学部 助教授)	WEBNET98 World Conference	アメリカ (オランダ)	A Web-based Remote Control Scientific Experiment System	1998.11.6-11.14

◆海外学術会議での発表派遣(平成10年度)

氏 名	学術会議名	開催地	発表 題 目	派遣期間
松野了二 (総合管理学部 教授)	ED-MEDIA & ED-TELECOM 98	ドイツ (フライブルグ)	英語を母国語としない人のためのハイパー メディアを用いた英語発音改良プログラム	1998.6.18-6.27
宮園博光 (総合管理学部 講師)	16th International Congress on Acoustics (第16回国際音響学会)	アメリカ (シアトル)	基本波の欠けた複合音への注意フィルタに 対する抹消モデルの適用	1998.6.19-6.28
深津和彦 (生活科学部 教授)	World Polymer Congress Macro 98 (世界高分子会議)	オーストラリア (ゴールドコースト)	塩素イオン溶液中における電解によるポリ エチレンオキシドの分解	1998.7.12-7.19
堤 裕昭 (生活科学部 助教授)	6th International Polychaete Conference (第6回国際多毛類会議)	ブラジル (クリティバ)	イトゴカイの摂食行動とその生態学的意義	1998.7.25-8.9

◆熊本県立大学学会開催補助金 採択実績(平成10年度)

学 会 名	開催日	内 容
日本計画行政学会 九州支部第19回 (熊本)大会	H10.6.13 ~6.14	・基調講演「中核市熊本市の21世紀へ向けたまちづくり」(御厨一熊(熊本市助役)) ・シンポジウム「中核市と計画行政」(コーディネーター今川晃(総合管理学部 教授)) ・第一分科会「中核市と計画行政」 (1)「地方分権と地域連携~筑後川流域図の試み」 (2)「熊本県の地下水」 (3)「環境保全のための広域と狭域の行政対応」 (4)「中核市をめぐる」 ・第二分科会 (1)「モニタリングと隘路の経済分析」 (2)「家庭ごみの有料化について」 (3)「熊本県の人口移動分析」



- ◆学術紀要
- ◆文部省科学研究費補助金
- ◆後援会からの助成
- ◆海外学術会議での発表派遣
- ◆学会開催補助金
- ◆地域貢献研究事業

本
学
で
の
研
究
状
況

◆熊本県地域貢献研究事業 採択実績(平成10年度)

☆地域振興支援研究(文化、自然、社会等の領域における地域振興の一助となる研究)

氏 名	研 究 テ ー マ	交付決定額 (千円)
大岡敏昭 (生活科学部 教授)	環境共生型住宅に関する研究	650
鶴田英子 (生活科学部 講師) 池邊重子 (生活科学部 助手)	生活習慣病死亡率の地域格差の追究(生活環境、経済、教育、文化等の面から)	520
石橋敏郎 (総合管理学部 教授)	熊本型高齢化福祉の転換期(公的介護保険制度導入が市町村福祉政策に与える影響)	700
市村憲治 (総合管理学部 教授) 松野了二 (総合管理学部 教授) 税所幹幸 (総合管理学部 助教授) 津曲 隆 (総合管理学部 助教授) 宮園博光 (総合管理学部 講師)	電子図書館におけるマルチメディアサービスの実用研究	1,308

☆学術高度化研究(学術の高度化に寄与し、ひいては本県の発展に寄与しうる優れた着想を持つ基礎研究及び特色ある研究を格段に発展させる研究)

氏 名	研 究 テ ー マ	交付決定額 (千円)
竹原素雄 (文学部 教授)	三島由紀夫「金閣寺」の世界	72
三木悦三 (文学部 教授)	言語学のいくつかの問題と言語の共同体的基礎	251
稲川順一 (文学部 助教授)	西日本方言に見る方言伝播のありようについて	300
徳永紀美子 (文学部 助教授)	アメリカ文学同時代作家の研究	1,310
星乃治彦 (文学部 助教授)	ミュンツェンベルクに関する史的考察	600
福田嘉一郎 (文学部 助教授)	京都大学附属図書館蔵「大蔵流狂言」翻刻	144
菅野道廣 (生活科学部 教授)	食物アレルギーの新しい発症抑制策(特に食事成分による免疫グロブリンA(IgA)の産生調節に関する研究)	1,320
龜山 春 (生活科学部 教授) 松岡勝子 (生活科学部 助手) 吉田 滯 (九州農業試験場上席研究官)	調理による野菜類に含まれる硝酸の除去についての研究	2,002
鈴木 公 (生活科学部 助教授)	魚鱗粉末(コラゲイト)の生体内利用に関する研究	1,630
松野了二 (総合管理学部 教授) 税所幹幸 (総合管理学部 助教授) 堤 豊 (九州帝京短期大学 講師)	語学教育のためのマルチメディア辞書の作成	2,000

☆設置者からの依頼研究(設置者である熊本県の各所属が持つ政策課題等の研究)

氏 名	研 究 テ ー マ	交付決定額 (千円)	依 頼 元
重松三和子 (生活科学部 助教授) 福岡義之 (生活科学部 助教授)	身体障害者のための車椅子バスケットボールの意義	1,778	県障害保健福祉課
古賀 実 (生活科学部 助教授) 井村麗子 (生活科学部 助手) 脇 美登利 (県環境保全課主事)	家庭廃油を原料とする手作り石鹸製造技術の最適化及びその普及	1,150	県環境保全課
堤 裕昭 (生活科学部 助教授) 小林信也 (県文化企画課主幹)	自然史系博物館基本計画作成に関する調査研究	890	県文化企画課
堤 裕昭 (生活科学部 助教授) 古賀 実 (生活科学部 助教授) 陣内康成 (県水産研究センター主任技師)	緑川河口干潟地域のアサリ資源激減の原因究明とその回復策	1,040	県水産研究センター
松添直隆 (生活科学部 講師)	熊本県の特産野菜・熊本長ナス(通称赤ナス)の果実の着色と色素生成について	1,140	県農業研究センター
渡邉榮文 (総合管理学部 教授) 石橋敏郎 (総合管理学部 教授) 今川 晃 (総合管理学部 教授) 原田 久 (総合管理学部 講師)	市町村合併フォローアップ調査研究	1,040	県市町村課
米澤和彦 (総合管理学部 教授)	熊本県における新たな過疎対策の方向性に関する研究	350	県地域政策総室
久間清俊 (総合管理学部 教授) 松尾 隆 (総合管理学部 助教授) 黄 在甫 (総合管理学部 助教授) 井田貴志 (総合管理学部 助教授) 小泉和重 (総合管理学部 講師)	農協の広域合併の効果について(合併効果診断事業)	700	県農業団体金融課
秋山嘉文 (総合管理学部 教授)	ビッグバンが農協に与える影響とその対応について	395	県農業団体金融課

☆リカレント教育(職業人の再教育を行い、ひいては地域社会の発展に寄与するもの)

氏 名	研 究 テ ー マ	交付決定額 (千円)
藤尾好則 (総合管理学部 教授) 市村憲治 (総合管理学部 教授)	パソコンを活用した事務の効率化について ~自治体職員への指導~	309
石橋敏郎 (総合管理学部 教授)	障害者福祉の新しい潮流と熊本県障害者福祉のあり方	213
原田 久 (総合管理学部 講師)	自治体における問題解決のための政策立案及び立法化の手法	182

☆その他研究事業の趣旨に添った研究等(出版助成)

氏 名	出 版 題 名	交付決定額 (千円)
田中啓介 (文学部 教授)	アメリカ作家の異文化体験	210
三島淑臣 (総合管理学部 教授)	カントにおける理想法思想の成立	1,000

お好み焼きは
豚・いか・えび
パスタはアルデンテ！



生活科学部4年
月足 朝美
山田 祐歌

ピンクのズボンにカラフル靴下がちらり。鼻の下に白髪混じりのヒゲが見えたら、それは中島先生です。先生はとてもカジュアルなフアッションです。ほとんどスーツ姿を見れることはなく、夏は素足でやって来ます。4年の授業で球磨郡川島集落に調査へ行った時は、先生は農山村地域の研究をしていらつしやることもあり、目的地へ着くなりズボンの裾を長靴へ入れ、柄のシャツは日焼けの跡がつくからと、白いシャツに首にはがつちり巻いた白いタオルと、みるみるうちに調査フアッションとなつたのです。

中島先生は料理にはこだわりがあり、今まで先生の自慢料理をいくつかご紹介になりました。お好みパーティーをした時は、私たちは当たり前のようにツナコーン玉やもちチーズ玉を作ろうと思つていましたが、大阪出身の先生に「邪道」と言われました。先生の作るお好み焼きは材料から粉の混ぜ方、焼き方まで徹底しており、言うまでもなく私たちの好み焼きより数段おいしかったです。先生の作ったパスタ料理「ジェノベーゼ」も大変美味です。先生はイタリアに留学なさっていたこともあり、お忙しいながら「イタリア語講座」もしていただきました。イタリア語は夏までしか勉強できませんでしたが、先生の大好きなイタリアに是非とも行きたいと思つています。

今年は、環境共生学部が新設されることもあつて、毎日休み暇なく働いていらつしやいます。そのようなご多忙の中で私たちの卒論にも気にかけてくださり、大変感謝しています。また、私たちの意志を第一に尊重してくださるの価値のあるものとなりました。これからもまた忙しい日々が続くと思いますが、お体に気をつけてがんばってください。

Grazie, arriverà a presto!

環境共生学部 教授 中島照八郎
(平成11年4月開設)

学生より学生らしい
大学生生活を過ごしている
テニス好きの
話せる先生



総合管理学部4年
渡邊 幸嗣

津曲先生の専門は「情報科学」で、主にゼミ(専門演習)ではExcel+を使用してゲームなどのプログラミングを行つています。情報系を専攻する学生は少数ですが、その中でもプログラミングを扱うのは特殊な部類で、ゼミ生は4年が5人、3年が4人という少人数制です。いつも、雑談混じりのアットホームなゼミが展開されています。

先生は無類のテニス好き。ナイター完備のテニスコートで、情報系の先生方とテニスで汗を流すという実に健康的な大学生生活を送つてらつしやいます。だから、夕方ゼミ室を訪れても、テニスコートの欄に印が...といったこともしばしば。

津曲先生には3年間お世話になつていますが、いまだ先生のスーツ姿を見たことがあります。いつも門限ギリギリまで残つて仕事をされていて、忙しいんだと一緒で、締め切りが迫らないとやる気が出なくて」との返答が。学生よりも学生らしいというか、あまり大学の助教という感じは受けません。そんな先生ですが、論文や発表の内容に関してはキチツとしていて、不思議な点に関しては鋭い指摘が返ってきます。学生側としても足りない部分がはつきりして、



総合管理学部 助教授 津曲 隆
(写真右から3人目)

四川と道教

文学部 助教授 山田 俊 (平成9年8月から平成10年7月まで中国に留学研修)

後漢の時代に張道陵なる人物が道教を起こしたとされる鶴鳴山、太上老君という道教の神にまで祭り上げられた老子が奉られている老君山、中国最大の道教の聖地・青城山、これらは全て四川省にその偉容を誇っている。道教だけではない。泰山・峨眉山は四川省の仏教の名山である。その四川省の省都・成都は、かつての宗教大國・巴蜀の都だった城市である。四川聯合大学宗教研究所は、この成都市に位置する中国唯一の独立した宗教研究所であり、道教を始めとし、仏教・キリスト教・イスラム教などの様々な宗教の専門家が日々研鑽する、中国宗教研究の最高峰である。また同研究所は四川省社会科学院とも緊密な関係にあり、同院も優秀な宗教研究者を多数擁している。この研究所で私は、資料を収集整理し、中国内外の研究者達と



定期的に研究討論の場を設け、論文を執筆するなどして一年の時を過ごした。道教を主たる研究対象とする私にとり、まさに至福の時であった。

研究外では、成都市内にある西南地区最大の道観(道教の寺院)である青羊宮にあしげく通い、道士(道教の僧侶)と交流を深め、道観内の「素菜」(精進料理)に舌鼓を打ち、中国武術の御大・郭老師に就いて太極拳・剣を学び、驚く程に値段の安い映画館で中国映画を見倒し、時には四川の名菜「小吃」の門をくぐっては、腰が砕けそうな辛さと、登仙しそうな甘さに陶酔し、愛書を片手に灯ともし頃まで茶館で蒙茶を吸り、骨董屋の怪しげなおやじと喧嘩しながらガラクタを物色したりした。

開放改革の大波は確実に成都にまで及んでいるとはいっても、素朴さとしたたかさを失わずその方言が醸し出すゆつたりとした時間感覚は、古の巴蜀の気脈を確かに今に伝えており、それは、一年間の道教研究の成果と共に、当分、私の脳に纏わり付いて立ち去りそうにもない。

随筆

Come va?

環境共生学部 助教授 福岡義之 (平成9年9月から平成10年9月までスイス及びイタリアに留学研修)

イタリアと言えば「観光都市」「セリエA」「芸術の都」「イタリア料理」「古代ローマ」といったキーワードを連想されることでしょう。私は平成9年9月から一年間、スイスのジュネーブ大学医学部生理学とイタリアのミラノ国立医学部生理学と理学で海外研修をいたしました。この仕事は、エネルギー代謝の高地順化、宇宙環境での筋萎縮、心移植患者や末梢血行障害者のエネルギー代謝といった種々の環境変化に対する生体の与える生理学研究です。所属していた human physiology の講座は、ノーベル生理学賞を輩出したところだけあって研究のアイデアと生理学的な考察の深さには世界的にも定評があります。



込みに出かけます。共働きでないと生活は苦しいはずですが、イタリア人はゆったりとした生活を過ごそうと努めます。仕事が好きではないのでしょうか?と尋ねると、4月からサマータイムとなるので、まだまだ明るい内に仕事を終わらせ、帰宅前に軽くアペリチエフを引っかけながら会話を楽しみ、そそくさと帰宅し、8時頃から家族と食事を取ります。女性の家事労働は比較的緩やかなせいか、夕食を済ませた後はたいして外に出かけません。イタリア女性が綺麗なのは、このような日常生活とベビー・シッターを上手に利用しているからではないでしょうか?

6月8月は野外演奏会が毎日のように開催され、近くの教会や広場、ミラノではスフォルツェスコ城内でのクラシックコンサートが無料で楽しめます。コンサートが終わったら、軽くビールで喉を潤して帰宅します。ご存じかと思いますが、ベローナ(Venice)では夏季のみ(6月8月、アレナ「屋外円形劇場」)にオペラが上演され、ヨーロッパ中のオペラファンを魅了します。アイダ、トスカ、椿姫、リゴレットなどなど……。

8月は待望のパカンスです。この時期、イタリア人はバカンス気分です。仕事になりません。ミラネーゼは8月の3週間全く仕事をしませんから、開いている店を探すのが大変です。ミラノには「日本人観光客しかいない」とニュースになるくらい、全くのゴーストタウンとなります。さて、私たちのパカンスと言いますと、ナポリ湾の西30kmにあるイスキア島に出かけました。この島は、青の洞窟で有名なナポリ島の隣島です。ここはイタリア人とドイツ人の避暑地で、イタリア語・ドイツ語が公用語とおかしなところ。1年の疲れを洗い流すには最高の避暑地で、ナポリ料理を堪能し地中海の青い海と太陽の下で1日を過ごします。とにかく、日焼け、日焼け……日焼け

することがバカンスに出かけた証拠であり、日焼け方にもこだわりがあるイタリア人です。

「郷に入れば郷に従え」で、イタリアではイタリア語を話さなければいけません。ここで生活するには言葉が大きな壁です。研究所での会話は英語、しかし、一歩外に出れば全く英語が通じません。語学学校に通おうかと真剣に考えるくらいでした。結局、イタリア語での会話はすべて家内に任せてしまいました。

話好きで自分の主張をなかなか曲げないのもイタリア人です。頑固で自信満々な国民性が、豊かな生活文化を継承し続け、古代ローマの芸術と伝統を守り続けたように思います。経済的には決して豊かではないに、戦後、日本はあまりにもいろんなものを捨ててきたように思います。経済的な豊かさのために。

Ci vediamo !!



才能を見い出す

私は「先のことを思いめぐらすより、そのときにたくさんさんの奇跡や感動を感じて」います。大学生活の中で出会った友人が、私のこの一面を発見することを助けてくれました。友人がこの言葉を発した時、自分の生き方に沿って将来を真剣に考える友人とは違う才能を自分が持っていることに気づけたのです。

私は自己の向上のために、周囲にいる模範となる人の才能を見習おうとするところがあります。しかし私自身の生き方や興味に裏打ちされていない才能は、これまで結局実を結んでこなかった気がします。

私は、よい模範である友人と私の才能の違いを喜びをもつて受けとめました。一人一人が他者のものと異なるたくさんさんの才能をもつていて特別であるということが理解でき、それぞれが自分の才能を見出し、磨き、発揮していけばよいということを心から感じる事ができたのです。

友人は、自分では見ることが難しい横顔のようである才能を発見することを助けてくれます。

これから、私は不安や迷いの中で、新しいことに挑戦したり、友人に助けをもらったりしながら、自分の才能を見出し、伸ばし、成長していくと思います。自分にとっても友人にとっても、どんなときも、その才能を見い出すことのできる真の友でありたいと考えます。



文学部
英語英米文学科3年

貞村 祐佳里

職探し

「はい、是非。」と即答。「じゃ、採用するかどうかは後日連絡します。」って、それが面接だっただけで、採用の連絡がなかったのはそれから1ヶ月後の事だった。後から知ったんですが、この会社はガイダンスやセミナーには参加せず、興味を持ったら面接しに来てくれる人だけを面接していたそう。

「じゃ、採用するかどうかは後日連絡します。」って、それが面接だっただけで、採用の連絡がなかったのはそれから1ヶ月後の事だった。後から知ったんですが、この会社はガイダンスやセミナーには参加せず、興味を持ったら面接しに来てくれる人だけを面接していたそう。

ちょっとラッキーな決まり方だと思っ。就職先が決まったんやっぱあるよねって思った。5月頃の事、ほんやりの働く眺めていると「これからの対女性」という感じが肩肘張って、その中のひとりが素敵な事を話とて、なかなか人なのか興言っている。プロファイルを見と、(株)パステルラボ社長と映像企画。映像企画？ちょっとワクワクする。その頃就職活動がうまくいってなかった私にはう当たり次第いくしかないし決断し、即電話した。「就職活動中の学生ですが、新聞の対談記事を読んで御社に興味を持ちました。是非会社訪問して詳しく話を伺いたいのです。」後日、履歴書を持って会社訪問。話を詳しく聞いてみることにしている。社長の考え方にも共感できる部分が多い。1時間、30分話したような気がする。最後い話したたかも知れない。うちに分位だったか話を聞いてうちに、「今までの話を聞いてうちに、来たいって思った？」と聞かれ、「はい、是非。」と即答。「じゃ、採用するかどうかは後日連絡します。」って、それが面接だっただけで、採用の連絡がなかったのはそれから1ヶ月後の事だった。後から知ったんですが、この会社はガイダンスやセミナーには参加せず、興味を持ったら面接しに来てくれる人だけを面接していたそう。



生活科学部
生活環境学科4年

前 奈都子

常識を問う

大半の学生が常識に捕らわれて、学生生活を通じて、学生に対して抱いた危惧の一つがここにある。分では重要性を帯び、またある意味では正しさを内包している。また、常識といわれるものを認識する事も重要である。しかし、多くの学生（以て、常識は上辺上に留まっている。つまり、常識がなぜ必要か知に重要性を感じているもの）のような考え方は様々なある学生にとって、例えば、た知識、あるいは考え方、そのまま、その学生の考え方がその授業においても同様である。少しでも考え方の確立した教授の云うことであれば、それが正しいと感じ、納得する傾向が強い。だが、それらの考え方は、本質的な認識を意味するものではない。本質的な認識を求め、定める。その中で、一回は肯定する余地がある。否定の繰り返しは問題点の抽出力を伸ばす。

余す今だからこゝろを覆せば、世界をの力を伸ばす時と

小島 盛弥

常識を問う

大半の学生が常識に捕らわれて、学生生活を通じて、学生に対して抱いた危惧の一つがここにある。分では重要性を帯び、またある意味では正しさを内包している。また、常識といわれるものを認識する事も重要である。しかし、多くの学生（以て、常識は上辺上に留まっている。つまり、常識がなぜ必要か知に重要性を感じているもの）のような考え方は様々なある学生にとって、例えば、た知識、あるいは考え方、そのまま、その学生の考え方がその授業においても同様である。少しでも考え方の確立した教授の云うことであれば、それが正しいと感じ、納得する傾向が強い。だが、それらの考え方は、本質的な認識を意味するものではない。本質的な認識を求め、定める。その中で、一回は肯定する余地がある。否定の繰り返しは問題点の抽出力を伸ばす。

余す今だからこゝろを覆せば、世界をの力を伸ばす時と

める。自己の考え方を飛躍的に高
余す今だからこそ出来る。暇を持て
びやサークルも重要だが、自
の力を伸ばす時も持とうではな



サークル便り

女子バスケットボール部

総合管理学部 2年

松田 英恵



私たち、女子バスケットボール部は現在、火・木・金曜日の週3回練習に励んでいます。昨年は熊本県のバスケットボールリーグ女子第6部で4勝2敗というまずまずの成績を残すことができたのですが、3年生が引退してしまつてからは2年生5名、1年生2名の計7名しかおらず、その7名も調義があつたりアルバイトがあつたりで、なかなか全員そろつての練習ができない日々が続いています。

このような苦しい状況にありますがみんな仲良く、楽しんで練習しています。また初心者も多いため基礎から本格的なプレイまで幅広く練習しているの

バドミントン部

総合管理学部 2年

岩下 容子



私達バドミントン部は毎週火・水・金・土に練習しています。現在部員25名で試合に向けてそして自分達の技術向上に努力しています。昨年は熊本県新人戦で4強入りを果たしました。またキャンプなどを盛んに行い、部員相互の親睦を深めています。私達と一緒にバドミントンを通じて充実した大学生活を送りましょう。

ハンドボール部

総合管理学部 3年

奥田富美男

ハンドボール部は、月・火・木・金・土の週5回、第1体育館で練習に励んでいます。目標は、春季・秋季学生リーグの1部昇格、そして全日本インカレ出場です。この目標は創部当時からのもので、大変大きな目標ですがチーム一丸となり常に向上心を持つて努力しています。チームの大きな特徴は、ハンドボール未経験者ばかりですが、今までの先輩方で考えられた独自のハンドボール理論で経験者ばかりの他大学に勝つことができるということです。現在

華道部

生活科学部 4年

中原 愛

華道部では、小原流家元教授、野田豊幸先生御指導の下、部員一同、花とのふれあいを楽しみながら生け込みを行っております。

週に一度の練習と併せて、二ヶ月に一度開かれます小原流熊本支部華道研究会への出席、熊華連、青年部華展での作品出展、また型に添った生け込み練習ばかりでなく、クリスマスにはリース作り、お正月には伝統的な正月花、他ちよつとしたフラワーアレンジメントをするなど、多彩な活動を行

はリーグの4部から3部昇格後、3部の壁に苦しんでいます。が、今年の秋季リーグには必ず2部に昇格します。そして、ちの後輩達のため、ハンドボールのやりやすい伝統・環境を残していこうと思います。



ております。師範、准教授、家元教授とお免状の取得ができることも嬉しく、花と向き合うことで心に安らぎを得て、潤いある学生生活を送っています。





平成9年度卒（総合管理学部）
岩永 倫子
(シロヤパブリガン(株) 勤務)

縄文杉への道を歩いて。

ではないのだと意識するようになり
ました。
普段何気なく過ごしていた時間、
特に自分の時間の貴重さを改めて実
感しました。在学中は1分1秒を意
識することはほとんどありませんで
したが、今は自分の自由となる時間
の貴重さと素晴らしいさを、一歩一歩
踏みしめた屋久島の歩みから実感
しているところです。



あこがれの屋久島・縄文杉に会っ
てきました。縄文杉に会いに行くに
は、いくつかのルートがあります。
今回、初めての本格的な登山でした
が、片道10kmのコースを小屋泊しな
がら向かいました。
山歩きを楽しむためには様々な道
具が必要です。逆に体一つでは何も
できないのです。森の中を一歩一歩
踏みしめると人間の無力さをさ
らに痛感させられます。急な山道を
屋久杉の根を足場にして少しずつ登
らなければならぬところ、歩道を
ふさいでいる倒れた杉をなんとかよ
じ登らなければならぬところもあ
りました。しかし森の空気に心を洗
われ、疲れた体を流れる水で潤し、
助けられました。人間は自然に生か
されているのにすぎないのだとい
うことを体全体で思い知らされます。
無事に山から下りてきて、あたり
まえだと思っていたことが実はそう

卒業生からのメッセージ

message for you

大学を卒業してすぐ韓国に渡り、
日本の短大に当たる専門大学で日本
語を教える3年になります。来てす
ぐの頃、韓国語は全く話せず授業も
経験不足という事で多くの人に助け
てもらいました。これではいけない
と思い、夏休みを利用して語学研修
プログラムに参加しました。韓国人
の先生に韓国語で韓国語を学び、話
せるようになったのは勿論、授業の
やり方の参考にもなりました。この
経験がなかったら1年目で日本に帰
っていたかもしれません。
今でも母語を教える事の難しさは
変わりませんが、それだけに学生が
話せるようになるのを見ると嬉しさ
も一入です。私はこの仕事にやりが
いを感じています。
こんな仕事に巡り合えたのも在学
中自分なりに努力した結果のような
気がします。副専攻で日本語教育と
教職を取っていた私の学生生活は
「忙しかった」の一言に尽きます。
試験期間中はさらにひどく1日5科
目受けた事も。今となつてはそれ
もいい思い出です。
大学は「自分探し」にもつてこ
いの場です。この時期に自分が興味を
持てる分野を見つけれればそれに
関連する職場に就けるわけです。自
分が行動を起こす事によって何かが
変わります。それを良い変化にする
もしないも自分次第。とにかく今や
れる事から始めてみてはどうでしょ
う。社会に出てからの時間は在学期
間よりも遥かに長いのです。それを
楽しく過ごしたいと思いませんか？



平成7年度卒（文学部）
賀久真知子
日本語講師（韓国・永進専門大学 勤務）

やりがいのある仕事

国際交流

● 祥明大学校に加え、
モンタナ州立大学へ留学生派遣

● 本学では従来より、大韓民国の祥明大学校と最長1年間の留学生の相互派遣を実施しており、毎年、数名の学生が同校へ留学しています。

● それに加え、平成10年度より、アメリカ合衆国のモンタナ州立大学ボーズマン校及びビルングス校（両校とは平成9年9月に学生交流協定を締結）への最長1年間の留学生の派遣が開始されました。学生13名の応募に対し、国際交流委員会の選考により4名が、昨年9月から両校へ派遣されています。現地での学生と同じ授業に参加するため、皆、必死に勉強しています。



モンタナ州立大学への派遣学生壮行会（H10.8.5）



モンタナ州立大学ボーズマン校

● 留学生と交流を深めているようです。

● 平成10年度 派遣留学生者

● 祥明大学校（大韓民国）

・文学部 日本語日本文学科3年

・松崎 愛美 H11.3から留学中

・総合管理学部2年

・高倉 愛希 H11.3から留学中

● モンタナ州立大学（アメリカ）

・ボーズマン校

・文学部 英語英米文学科3年

・保田 有美香 H10.8から留学中

・ビルングス校

・文学部 英語英米文学科4年

・笠 由可里 H10.9から留学中

・総合管理学部2年

・木原 正吾 H10.9から留学中

・総合管理学部4年

・野田 久美 H10.9から留学中

インターンシップ

（企業等での就業体験研修）

● 平成10年度インターンシップ派遣実績

（派遣先）	（期間）	（参加学生）
水俣市役所	H10.8.4～8.10	総合管理学部 3年 柏木 瞳
		同 2年 白坂 優季
		同 3年 土方 康子
（株）テクノアート	H10.9.7～9.11	



水俣市役所におけるインターンシップ（「湯之児海賊船祭」の準備作業）



同上（笑しやうの森の草刈りに参加）

● 最近の就職状況は非常に厳しくなっております。このような中、各大学で、学生の将来の進路決定の参考に資するため企業等での就業体験をさせるインターンシップが導入されはじめています。

● 本学においても、昨年の夏休み、総合管理学部において水俣市役所と（株）テクノアートに同学生の学生3名を試験的に派遣しました。

● 水俣市役所では、同市の水俣病資料館で実際に来客対応を行い住民との対応方法を経験したり、「湯之児海賊船祭」というイベントにスタッフとして参加するなど、行政の実務を体験、また、（株）テクノアートにおいては、社員の指導のもと実際にホームページを作成したり、ある課題をインターネットにより情報収集してレポートにまとめたりなど単なる業務の手伝いではなく、任された「仕事」を体験しました。

● 参加した学生も「プロ意識」を学べ有意義だったなどと感想を語っており、平成11年度も更に規模

研究者総覧1999の発行

● 本学自己点検・評価委員会では、「研究者総覧」（H6及びH8年度）と「現状と課題」（H7及びH9年度）を発行してまいりました。そしてこの3月、「研究者総覧」の最新版を発行します。「研究者総覧」は、本学教員の専門分野や研究課題、主な研究業績、学会や社会での活動などが記載されており、各方面で利用されています。この最新版は、現在在籍されている教員に加え、環境共生学部設置に伴いこの4月から就任される教員も掲載していることが特徴です。

● 全国の大学や県内高校のほか、県内の行政機関、図書館、報道機関などに配布される予定ですが、学内では、図書館で閲覧することが出来ます。



同上（水俣市立水俣病資料館の受付にて）

● を拡大して、10社20名程度派遣する方向で検討を進めています。

(学内専用ホームページ)

イントラネットを利用した

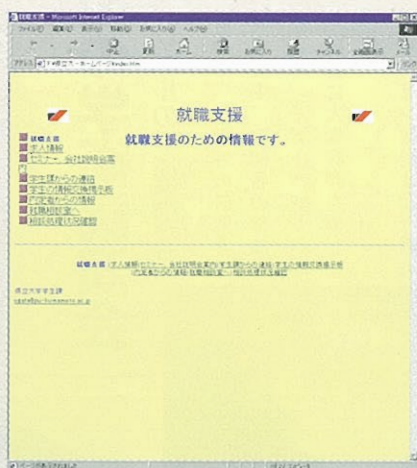
就職情報の公開

(ホームページで就職情報をゲットしよう！)

本学では、今年1月からホームページによる就職情報の公開を実施しています。

これは、本学のホームページ
(http://www.pu-kumamoto.ac.jp)に

「就職情報」の項目を設け、求人情報その他就職に関する情報を本学学生に広く公開するもので、求人情報のほか、セミナー・会社説明会の案内や、内定者からの生の情報、学生課からの連絡などの情報を入手することができます。また、就職相談員に電子メールで相



談できるページや、学生同士の情

ハートフルくもと大会の サポーター養成講座

(身体障害者のためのスポーツ大会を
サポートするボランティアを目指せ)

熊本県では今年、「くもと未来国体」に引き続き、「第35回全国身体障害者スポーツ大会(ハートフルくもとと大会)」(平成11年11月6日〜7日予定)が開催されます。この大会は、障害者のスポーツ大会としては国内最大規模で、陸上競技や水泳などの競技が行われ、多くのボランティアの方々の協力により運営されています。

本学においても、本学学生の希望者を対象に、この大会においてボランティアとして大会の運営を支援するサポーターを養成する講座を開催しています。



第35回 全国身体障害者スポーツ大会
ハートフルくもとと大会

平成10年度「客員講師講義(講義補充方式)」実績

実施日	講 師	テーマ	対象授業科目
H10.4.17~7.10	(県内企業トップ12名によるオムニバス形式の講義)	(各人で設定)	地域社会と企業 (教養科目)
H10.5.27	マルティン・ボラヒャー(ルール大学(ドイツ) 教授)	ゲーテと現代	ドイツ語文学 (文・専門)
H10.6.9	高橋 敬明(株)電通テック 常務取締役	広告表現の実際	広告論 (総管・専門)
H10.6.15~6.29	小村 健治(はんだ設計小村事務所 代表)	住宅の設計手法(特に木造架構)	住居計画学実習 (生・専門)
H10.6.25	山田 克彦(株)キリンビール東京工場 工場長	ビール製造の生化学-麦芽製造から醸造まで-	生化学 (生・専門)
H10.6.29	森 近(水俣市 財政課長)	水俣の自治再生	地方自治論 (総管・専門)
H10.7.17	木村 由紀雄(和光経済研究所 ベンチャー企業調査部長)	現代日本経済社会の将来	社会政策論 (総管・専門)
H10.9.7	丹伊田 謙(有)ロコス設計同人 所長	風土と建築デザイン	環境デザイン学 (生・専門)
H10.10.14	甲斐 利幸(矢野町長)	矢野町の行政について	福祉行政論 (総管・専門)
H10.11.4	竹村 雄(東京外国語大学 名誉教授)	英語の母音の発音	英語音声学 (文・専門)
H10.11.12~11.13	土屋 博樹(明治学院大学 教授)	日本語教育	日本語教授法 (文・専門)
H10.11.16	岡 達三(鹿児島大学 教授)	血液に関する実験	解剖生理学実験 (生・専門)
H10.11.24	古賀 勝士(元鹿児島高等学校教諭)	国際教育の現場	国際教育論 (教職・専門)
H10.11.24	松代 隆子(株)電通 マーケティングディレクター	生活者分析とマーケティング戦略	マーケティング論 (総管・専門)
H10.11.25	池田 志郎(熊本大学教育学部 助教授)	アメリカ文学への第一歩	現代の文学 (教養科目)
H10.12.1	山田 忠昭(財)熊本開発研究センター 調査研究部長	熊本の地域開発の現状について	地域社会論 (総管・専門)
H10.12.2	江藤 和郎(詩誌「パンセ」 編集長)	詩の魅力	現代の文学 (教養科目)
H11.1.19	立花 宏文(九州大学農学部 助教授)	糖質生化学 工学入門	栄養生化学 (生・専門)
H11.1.20	佐藤 智光(株)熊本ホテルキャッスル 宴会サービス係長	テーブルマナー	調理学実習 (生・専門)
H11.1.20	佐々 良清(株)熊本ホテルキャッスル 洋食料理部	テーブルマナー実習	調理学実習 (生・専門)
H11.1.21	加藤 長典(広島女子大学 教授)	全米リズム	楽理生化学実習 (生・専門)
H11.1.22	山本 茂(徳島大学農学部 教授)	長寿と栄養	運動生理学 (生・専門)

(実施日順)

平成10年度 特別講義実績

開催日	講 師	テーマ	対 象
H10.10.5	片方 信也(日本福祉大学 教授)	京都のまちづくり	生環1年~4年
H10.10.28	宮田 誠一(シアトル熊本県人会会長)	最新アメリカ事情	総管1年~4年
H10.11.18	川本 義清(西南学院大学 教授)	言葉と人間	全学1年~4年
H10.11.20	内田 泰(佐賀大学 教授)	キチン・キトサンの機能性と利用	食栄3年~4年
H10.11.25	荒木 浩(大阪大学 助教授)	中世「随筆」の一側面	日文2年~3年
H10.12.8	廣瀬 幸生(筑波大学 助教授)	日英語比較構文の対象研究	英文1年~4年

(開催日順)

報交換ができるページも用意されています。

この「就職情報」のページへは、現在、就職資料室のパソコンからアクセスできますが、情報処理実習室の機器更新に伴い、更に今年4月からは、情報処理実習室のパソコンからもアクセスすることができるようになります。



客員講師講義 特別講義

(学外の専門家・有識者による
学生対象の講義)

本学には、専門的知識や卓越した実務経験を有し、若しくは、優れた技能を修得し、社会の諸分野において活躍している研究者、実務家、社会人の方を招いて、本学の学生を対象として講義をしていただく、特別講義及び客員講師講義の制度があります。

に授業時間外に講義をしていただくものです。

前回の「春秋彩」(vol.11)で紹介した「地域社会と企業」(企業)のトップ12名が講師に！「教養科目「地域社会と企業」」もこの客員講師講義制度を利用したもので、その他にも次のとおり実施されています。

中国・広西大学での 日本語教育実習

文学部の日本語教育課程では、平成2年から毎年、韓国の祥明大学校に学生を派遣し、韓国の学生を相手に日本語教育実習を行っており、高い教育効果を得ています。

それに加え平成10年度は、中国の広西大学においても日本語教育実習が行われました。これには2名の学生が参加し、広西大学の日本語クラスにおいて中国の学生を相手に50分の授業をそれぞれ2回ずつ実施しました。中国への渡航

期間は11日間（10/24～11/3）でしたが、現地までの交通機関や現地での食事等すべて学生自身で手配し、広い意味でも有意義な実習となりました。

●平成10年度 日本語教育実習実績

大韓民国 祥明大学校 学生4名を派遣
中国 広西大学 学生2名を派遣

W.モムゼン教授の学術講演会

（世界有数の研究者によるトップレベルの学術講演会）



W.モムゼン教授

昨年10月8日、本学において、ドイツ歴史学会の泰斗で、マックス・ヴェーバー研究の第一人者であるヴォルフガング・モムゼン教授の学術講演会が、「マックス・ヴェーバーと近代の市場志向資本主義の成立」と題して行われました。

この講演会は、本学総合管理学会の主催で研究者等を対象にした

もので、学内外の研究者や大学院生、約60名の参加者があり、そのトップレベルの内容に大変好評を博しました。

モムゼン教授は、今回の来日で東京・京都等全国数カ所で講演をされましたが、本学でのこの講演会はそのトップをきって開催されたものです。



学術講演会の模様



第34回 白亜祭

（毎年恒例の学園祭）

本学園祭の「白亜祭」が今年度も11月7日（土）と8日（日）の2日間で実施されました。恒例の「ミス&ミスター白亜コンテスト」のほか「3 on 3大会」、講演会及びパネルディスカッション、サークルライブなどの多くの企画や、講義棟各教室においては文化系サークルやゼミなどの展示が行われ、また、アカデミックプラザやキャンパスプラザには、焼きそばやクレープ、ラーメンなど多数の出店が並びました。当日は晴天に恵まれて、学生のほか地域の方々もたくさん来られ、秋の1日を楽しんでいたようです。



図書システムがリニューアル

今年4月から、本学附属図書館の図書システムが新しくなります。

新システムでは、何といても図書検索が使いやすく、しかも速くなります。書名や著者名の一部を入力するだけで指定した文字列を含む図書を瞬時に検索することができ、曖昧検索もできるようになります。

また、図書館の閲覧室に設置される利用者用の端末機器も8台となり、そのうち1階にある4台は本学所蔵図書の検索

の他、一部の外部データベースのアクセスや、図書館所蔵CD-ROMの閲覧もできるようになります。

更に、インターネット(<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>)を通じて研究室及び学外からも24時間図書検索をすることができるようになります。



情報処理実習室のパソコンが新しくなります。

情報処理実習室1～3は、講義に使用されるほか、常時1室を開放して学生の皆さんが自らパソコンで学ぶことができます。今年4月から、その177台のパソコン全てが新しくなります。

まず、モニタは液晶で目に優しく高画質・薄型になり、CP



Uはより高性能で処理が早くなります。更に、フロッピーディスクの四五百倍の記憶容量を

持つMOも使えるようになります。また、OS(オペレーティングシステム)も現在のWindows3.1からネットワーク機能の充実したWindows NTに変わります。併せて、各種アプリケーションソフトも最新版になり(「太郎9 Microsoft Office97 powered by word98 Netscape Communicator 4.05など」、最新の技術を駆使したホームページへのアクセスも容易に出来るようになります。今まで以上に実習室の活用が期待されます。

環境共生学部増築棟の新築・車両門の移設

本年4月に開設される環境共生学部のため、現在の生活科学部棟の東側に環境共生学部増築棟などが新築されます。環境共生学部増築棟は、渡り廊下で結ばれた北棟と南棟からなる5階建ての建物で、各種実験実習室や教員研究室などで構成されます。設計に工夫を凝らして自然の光や風を取り入れ、太陽光発電設備を備え、トイレ洗浄や空調に雨水を利用するなど環境や省資源に配慮したものとなります。そのほか、建築関係の構造実験や材料実験を行うための構



環境共生学部増築棟、構造実験棟及び温室
(平成12年3月完成予定)



造実験棟や、植物実験を行うための温室もあわせて新築されます。本年1月に本格的に着工されており、完成は平成12年3月の予定です。更に、現在の生活科学部棟も、新しい学部の用途にあわせて改修が行われます。

また、本学と日赤病院の間の道路が、国体関連道路として拡幅されて中央分離帯のある片側2車線道路となり本年4月には全面開通の予定です。大学への車両の出入りと安全確保のために、日赤病院側にある大学の北側車両門が約50m東に移設されました。

Schedule

(1999.3~1999.9)

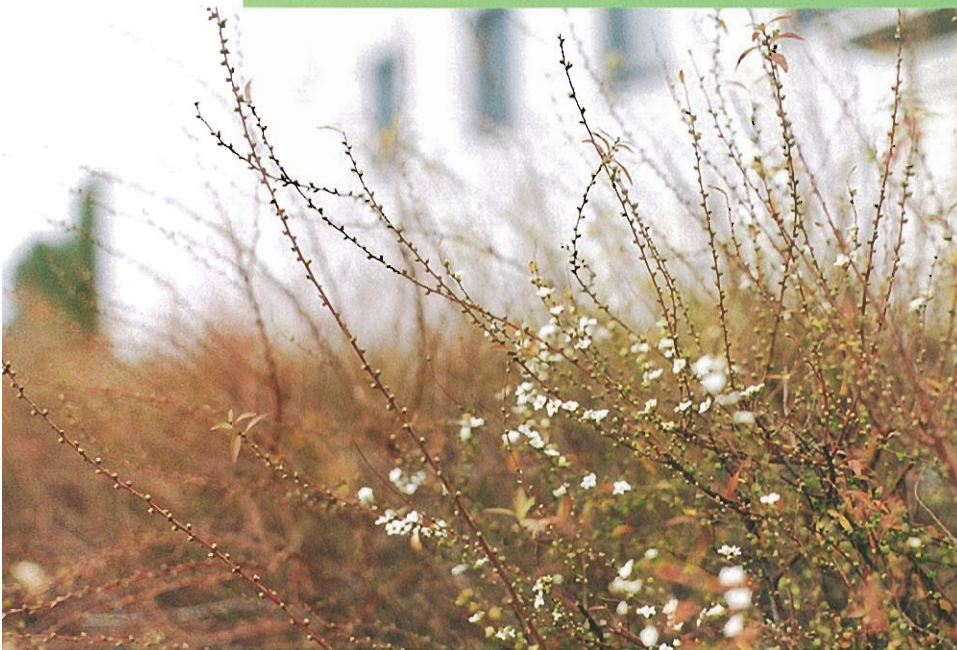
月	日	内容
3月	1日	個人模擬面接週間(～5日)
	3日	外国語教育センター所長選挙
	上旬	「体験学習講座」(インターンシップ)
	12日	入学試験(一般選抜(後期))
	14日	卒業式(県立劇場)
	17日	学内公務員講座合宿(～19日)
	中旬	韓国・祥明大校短期留学生来学
	25日	春季休業(～4月8日)
4月	1日	環境共生学部開設
	5日	在学生オリエンテーション
	5日	4年次生健康診断(～7日)
	7日	入学式(県立劇場)
	7日	新入生オリエンテーション(～8日)
	9日	授業開始
	9日	奨学金・授業料減免説明会
	上旬	公務員ガイダンス
	上旬	求人票送付依頼
	未定	3年次生進路ガイダンス(仮称)
	未定	留学生交流会(仮称)
5月	2日	開学記念日
	未定	1年次生進路ガイダンス(仮称)
	未定	情報処理技術者認定の国家試験対策勉強会(～10月)
6月	下旬	九州インカレ夏季競技大会(～7月上旬)
	下旬	韓国・祥明大校短期留学生研修団来学
	下旬	大学院アドミニストレーション研究科博士課程設置文部省協議
	未定	2年次生進路ガイダンス(仮称)
	未定	1～3年次生健康診断
7月	上旬	就職ガイダンス
	上旬	公務員ガイダンス
	11日	夏季休業(文学部、環境共生学部、生活科学部)(～9月5日)
	26日	前期試験(総合管理学部)(～30日)
	未定	夏休み直前講演会
8月	1日	夏季休業(総合管理学部)(～9月30日)
	上旬	大学説明会
	上旬	オープンキャンパス
	中旬	授業公開講座(後期)社会人受講者募集
	下旬	米国・モンタナ州立大学短期留学生派遣
	未定	企業採用状況調査
	未定	JALスカラシッププログラム招聘学生受入れ
	未定	インターンシップ(総合管理学部)
9月	6日	授業再開(文学部、環境共生学部、生活科学部、全学共通科目)
	中旬	入学試験(大学院アドミニストレーション研究科(前期))
	24日	前期試験(文学部、環境共生学部、生活科学部、全学共通科目)(～30日)
	未定	4年次生就職相談週間
	未定	企業見学会



Incident

(1998.7~1999.2)

月	日	内容
7月	(6/27から)	韓国・祥明大校短期語学研修団受入れ(～6日)
	3,9日	就職ガイダンス
	4日	清鈴祭(学園祭「白亜祭」プレイベント)
	11日	夏季休業(文学部、生活科学部)(～9月6日)
	13,16日	公務員ガイダンス
	27日	前期試験(総合管理学部)(～31日)
8月	1日	夏季休業(総合管理学部)(～9月30日)
	3日	大学説明会(高校教員向け)
	4日	インターンシップの実施(総合管理学部)(～10日、9月にも実施)
	5日	モンタナ州立大学派遣留学生壮行会
	6日	JALスカラシッププログラム招聘学生受入れ(～16日)
	6日	軟式野球部全国大会出場ベスト8進出(～10日)
	9日	オープンキャンパス
	10日	中学・高校英語教員向けリカレント講座サマーセッション(～14日)
	17日	授業公開講座(後期)社会人受講者募集(～31日)
9月	7日	授業再開(文学部、生活科学部、全学共通科目)
	7日	4年次生就職相談週間(～11日)
	14日	入学試験(大学院アドミニストレーション研究科(前期))(～15日)
	24日	前期試験(文学部、生活科学部、全学共通科目)(～30日)
	*	モンタナ州立大学ボーズマン校(1名)及びピリングス校(3名)短期留学生派遣(最長1年間)
10月	1日	後期授業開始
	5日	4年次生就職相談週間(～9日)
	6,7日	公務員ガイダンス
	13日	入学試験(大学院文学研究科(前期))
	19日	学内公務員講座(2年次生向け)開講(～平成11年7月)
	19日	3年次生公務員講座受講生学力試験
	20日	学内公務員講座(3年次生向け)開講(～平成11年5月)
	23日	3年次生と4年次生の就職懇談会
	下旬	日本語教育課程の日本語教育実習(韓国及び中国)
	*	企業訪問開始(～平成11年3月)
11月	7日	学園祭「白亜祭」(～8日)
	14日	九州インカレ冬季競技大会(～23日)
	14日	中学・高校英語教員向けリカレント講座フォローアップセッション
	18日	国家公務員試験説明会
	20日	就職活動マナー講座
	24日	職業適性検査
	28日	地域講演会(阿蘇地区:一の宮町)
	*	軟式野球部西日本大会出場
12月	1日	公開講演会(第1回)
	3日	就職シンポジウム
	6日	入学試験(特別選抜(文学部、総合管理学部))
	8日	地域講演会(天草地区:苓北町)
	12日	環境共生フォーラム
	15日	地域講演会(球磨地区:免田町)
	17日	韓国忠清南道立青陽大学学長来学
	21日	就職ミニガイダンス
	22日	文部省から環境共生学部設置認可
	22日	留学生交流会
	24日	冬季休業(～1月9日)
	下旬	北側車両門の移設工事(～2月末)
H11.1月	10日	入学試験(推薦入学(環境共生学部))
	11日	授業再開
	16日	大学入試センター試験(～17日)
	19日	教員ガイダンス
	23日	公開講演会(第2回)
	28日	就職ミニガイダンス
	下旬	環境共生学部増築棟等新築工事(～平成12年3月)
2月	3日	後期試験(～12日)
	12日	国際交流懇談会
	13日	入学試験(大学院アドミニストレーション研究科(後期))
	15日	就職セミナー週間(～19日)
	16日	入学試験(大学院文学研究科(後期)、私費外国人留学生)
	17日	附属図書館長選挙
	17日	米国・モンタナ州立大学ボーズマン校冬期研修(～3月11日)
	18日	企業見学会(～19日)
	20日	学内公務員模擬試験(～5月)
	24日	学生部長選挙
	24日	授業公開講座(11年度前期)社会人受講者募集(～3月10日)
	25日	入学試験(一般選抜(前期))
	下旬	韓国・祥明大校短期留学生派遣



編集後記

3月、卒業式。4月、入学式。春は人の門出を祝う希望に満ちた季節です。本学はこの春「環境共生学部」を開設し、更に来春アドミニストレーション研究科博士課程開設を計画しているなど、まだまだ目が離せません。この「春秋彩」がそんな本学の様子を知る一助になればと思います。

■おわびと訂正■

前号vol.11のP18「VOICE」のページ、「あきらめないぞ!」の執筆者名の表示が「福川美里」さんとなっておりましたが、「松野美和」さんの誤りでした。深くおわびして訂正いたします。

ご意見 感想募集

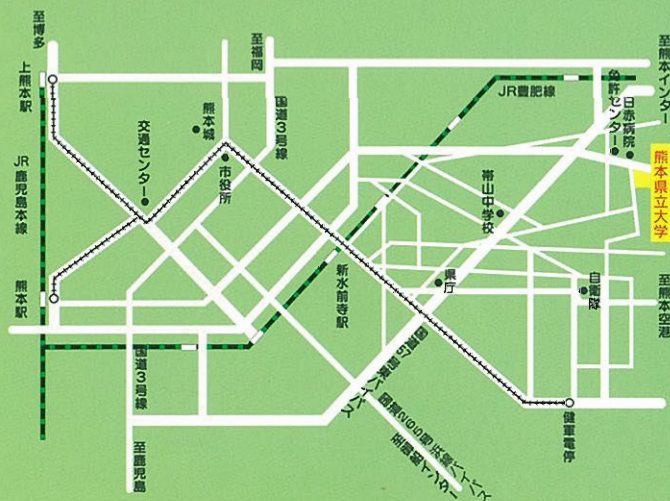
本誌についてのご意見、ご感想を下記にお寄せください。
みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていき
たいと考えておりますのでよろしくお願いします。

〒862-8502（住所記載不要）

熊本県立大学事務局総務企画課 「春秋彩」担当行

FAX:096-384-6765 E-Mail:gakuho@pu-kumamoto.ac.jp

■位置・アクセス



- バスを利用する場合
JR熊本駅よりバスで約10分、交通センター下車。交通センターのC番のりばから、長嶺団地行き、または日赤経由月行きバスで約40分、日赤病院前、または県立大通り下車、すぐ。（駅前の市電通りのバス停より、ほぼすべてのバスが交通センターを経由します。）
- タクシーを利用する場合

熊本駅から	所要時間…約40分	料金…約3,000円
水前寺駅から	所要時間…約15分	料金…約1,200円
熊本空港から	所要時間…約30分	料金…約3,000円



熊本県立大学

PREFECTURAL
UNIVERSITY
OF KUMAMOTO



10 総 熊県大
③ 004



古紙配合率40%再生紙を使用しています

発行：熊本県立大学
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL.096(383)2929 (代) FAX.096(384)6765
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>